

ハイフォン新聞

科学・技術

2016.10.27

ハイアン区における高濃度有機物を処理するシステムの導入実験

ハイフォン市人民委員会は10月27日午後、北九州市の国際技術協力機構(JICA)と連携し、酵素活性化法(CM技術)を活用する高濃度有機物処理システムについての技術セミナーを開催した。市人民委員会のレタンソン副長及び高濃度有機物を発生している60企業・生産工場・サービス業の代表者が参加した。

セミナーにて日本の各専門家は、JFILS会社(日本)が開発したCM技術を活用する高濃度有機物処理システムを紹介した。同方法は活性汚泥方法より多くの利点がある。特に、処理後の発生汚泥量が大幅な削減し、化学物質の使用量が削減させるためCO₂発生量が削減し、処理水の再利用をすることが出来る。情報によると平成28年9月9日からJFILSの技術者らはハイアン区ナンハイ魚市場で設備を設置し、排水処理システムの試運転を行った。

レタンソン副長は、北九州市の各専門家がハイナン魚市場における高濃度BOD処理システムの運用を成功することにより、ハイフォン市が直面している排水処理問題に対し、新たな科学技術を切り開くことが出来ると語った。技術セミナーを通じ、各企業が先進知識を学習する機会が出来、自分の企業にて効果的に応用することができる。レタンソン副長は外務局が繋ぐ役割を果たし、資源&環境局がハイアン区に同システムについて説明することを指示した。

関連機関はセミナー後に本技術評価を行った上で、市の人民員会に対し、次のステップとして、ハイフォンでの環境保全にCM技術を幅広く普及させることを目指す。